



JBCnews

since 1970

【毎月1回1日発行・1部20円】

JBCニュース
第547号 平成29年6月1日
昭和50年5月19日第三種郵便物認可

発行所
公益財団法人 全日本ボウリング協会
東京都港区芝4-4-10
サンライズ長井ビル8F 03(3452)4501
<http://www.jbc-bowling.or.jp/>

冷静さ、情熱も

斎藤 祐太

武部 公英

NHK杯 第51回全日本選抜選手権大会

勝利を引き寄せた1球は、落ち着きを必要とするスピアと、思いが通じたかのようなストライクでした。そして涙と笑顔、対照的な決勝のドラマを映し出した2人ですが、自分のボウリングに徹する冷静さと、NHK杯への憧れという情熱を持ち合わせてきたことは共通点。だからこそ優勝に手が届いたのでしょう。

写真提供：ボウリングジャーナル社

2～5面 第51回全日本選抜選手権大会
6～7面 全日本ナショナルチーム強化合宿
8面 ナショナルチーム通信、TOP BOWLER

KING OF BOWLING

第50回 全日本シニアボウリング選手権大会

平成29年6月23日(金)～25日(日)

主催	公益財団法人 全日本ボウリング協会
後援	愛知県教育委員会 公益財団法人 愛知県体育協会 稲沢市 稲沢市教育委員会 稲沢市体育協会 稲沢市ボウリング協会
協力	公益財団法人 ミズノスポーツ振興財団
主管	愛知県ボウリング連盟

世界最大のボウリング場
116レーン(長さ198.39m/650.88ft)

ギネス世界記録認定を受けた「世界最大のボウリング場」で、リニューアルされた「プロレーン」をご堪能ください。

稲沢グランドボウル 〒492-8164 愛知県稲沢市井之口大坪町 80-1
TEL 0587-21-2131 FAX 0587-21-2133
www.grandbowl.jp/inazawa



準優勝

石本
美来



後半も現状維持を続けていた石本はラストゲームで首位固めの256。武部と泉宗も大崩れせずに2・3位を守り抜いた。伊勢川が1ゲーム目に246と打ち上げたことで4位に食い込み、ファイナル進出の4人が確定した。

連覇を狙う石本と、8年ぶりのテレビ決勝となる武部、昨年3位の泉宗、ダークホースの伊勢川。年齢も実績も全く異なる4人の対決が大混戦となったのは、女子には厳しいレーンコンディションの仕業と言える。

1フレーム目こそ石本、武部、泉宗がそろってストライクを決めたが、全員単発に終わってしまう。石本が4・5フレーム目でダブルを決めた一方、他の3人はスプリットにも泣かされる展開。優位に立った石本もラスト2フレームはスプリットでオープンを喫して、181でゲームを終えた。9フレーム目でストライクを決めた武部と伊勢川は、あと2つ続ければ石本を逆転できる状況となった。第10フレーム1投目はともにストライクをつなげてきたが、2投目でピンを残して反撃はここまで。180の武部が2位通過を決めた。伊勢川は177、泉宗は168で、高校生の2人がここで姿を消した。

国内3大個人タイトルとされるNHK杯、全日本選手権、国体のうち、石本は昨年度NHK杯と全日本を制していた。一方の武部は一昨年度の全日本王者であり、昨年の国体優勝者。NHK杯の頂上決戦にふさわしい2人が勝ち残った。

武部はストライクでスタートし、石本は確実にスペアをとっていった。4フレーム目、武部は2・7・8番を残す難しいスプリットでスペアを決めて、ホツとした表情。思うようにストライクコースを描けずにいた石本は5フレーム目でボールチェンジしてストライク。手ごたえを得たかと思われたが、ダブルにつなげることはできなかった。

石本の7フレーム目はストライクを出した右レーンで投球だったが、3・6・10番が残ってしまい、まさかのスペア失敗。窮地に陥った石本はすぐに8フレーム目の投球に臨んで、こんどは9・10番のスプリットを残してしまった。これもオープンとなり、武部との差は2マークに。

リードができた武部は9フレーム目によりやく2つ目のストライク。逆転がゼロではない石本は、開き直った表情で9フレーム目にストライクを決めた。しかし10フレーム目につなげることはできなかった。

勝負がついてから最終フレームに臨んだ武部は涙をこらえながらの投球でゲームを締めくくり、インタビューでは3大タイトルの最後の一つを手にしたうれしさをあふれさせた。

女子の部入賞者

優勝：武部公英、準優勝：石本美来、第3位：伊勢川華愛、第4位：泉宗心音、第5位：向谷美咲、第6位：北村地



3位
伊勢川
華愛

4位

泉宗
心音



NHK杯 第51回 全日本選抜ボウリング選手権大会

女子の部

予選1回戦のトップ3は、667の越智真南（愛媛）、661の友部茉由美（茨城）と652の石本美来（学連）。以下12位まで32ピン差しかない混戦の大会スタートとなった。13位につけていた向谷美咲（千葉）は2回戦を637にまとめて首位を奪った。石本は12ピン差で2位、3位の伊勢川華愛（和歌山）は石本と3ピン差で相変わらずの接戦模様。

向谷は3回戦も630と抜群の安定感。トータル1887までスコアを伸ばしてトップを守った。石本も632にまとめて10ピン差の2位。浦川滯奈（大阪）はこのシリーズ694とし、17位から一気に3位へ浮上しただけでなく、石本と12ピン差まで追い上げた。

準決勝前半、石本は591にまとめて首位に立った。向谷は最終ゲームでつまづくも20ピン差で2位に留まる。3位に武部公英（大阪）、4位に吉田由美子（埼玉）とベテランの実力者が並び、ここまでアペレージ200超。スペアが重要になるシビアなレーンコンディションであることがスコアから伺えた。後半もさらに厳しい状況ながら、石本は600とし首位をキープ。武部が57ピン差で2位となり、その20ピン差に向谷と続いた。

朝一番のレーンコンディションでプレーする決勝前半もスコアは伸びなかった。その中でも石本は592にまとめたが、武部が611をマークしたことで、差は38ピンに縮まった。泉宗心音（愛媛）が617とし3位に上がると、向谷は4位に後退もファイナル進出圏をキープした。

優勝

武部
公英



武部公英		女子選手権者	
		大阪府	46歳
主な戦績	第54回全日本選手権 マスターズ戦優勝 第71回国民体育大会 成年女子個人戦第1位		
使用ボール	Jackal Ghost(15p3oz)		
公認トリマー	武本真明（公認No. 1539-27）		

《男子》

3位決定戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
斎藤 祐太 (神奈川)	▲	9	▲	9	▲	▲	▲	▲	▲	8	1
新畑 雄飛 (東京)	▲	7	▲	▲	9	▲	▲	▲	9	▲	▲
吉田 大祐 (愛知)	▲	9	▲	▲	9	▲	▲	9	2	▲	9
佐々木 智之 (神奈川)	▲	▲	9	▲	9	▲	▲	9	1	9	9
	20	39	58	78	108	138	168	198	226	246	決勝進出

《男子》

優勝決定戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
斎藤 祐太 (神奈川)	▲	▲	▲	9	▲	▲	▲	▲	9	▲	8
新畑 雄飛 (東京)	▲	▲	▲	▲	9	▲	▲	8	▲	9	▲
	30	59	79	98	118	148	178	207	227	245	優勝

《女子》

3位決定戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
石本 美来 (学生連合)	▲	9	▲	9	▲	▲	9	▲	9	2	2
武部 公英 (大阪)	▲	8	▲	9	▲	8	1	8	▲	8	▲
泉宗 心音 (愛媛)	▲	8	▲	7	2	8	1	9	▲	8	7
伊勢川 華愛 (和歌山)	9	6	9	9	7	2	6	2	8	▲	9
	16	35	54	71	80	88	108	128	157	177	3位確定

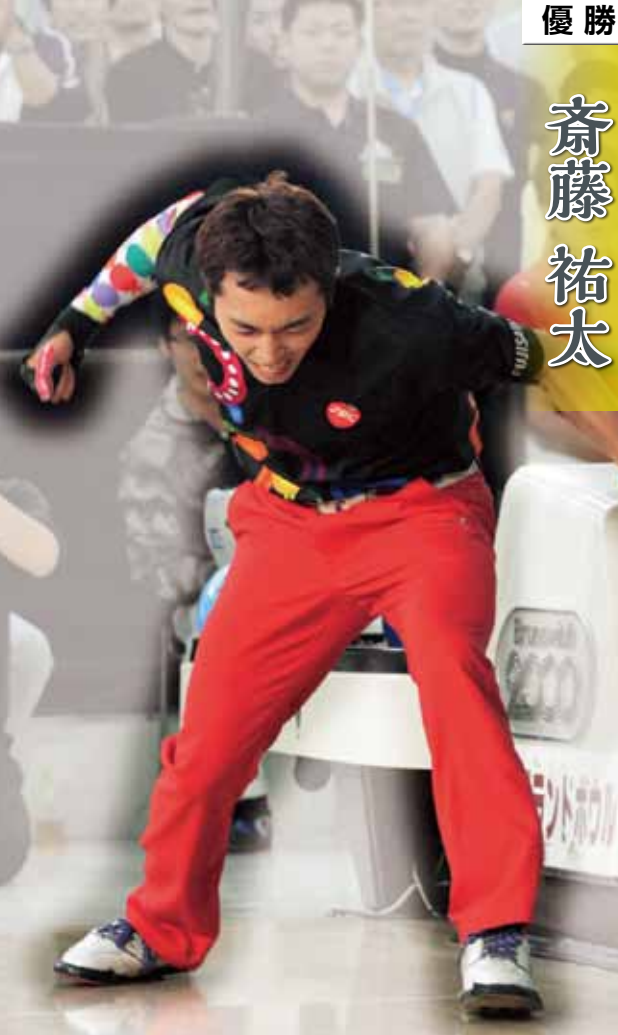
《女子》

優勝決定戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
石本 美来 (学生連合)	7	9	8	7	▲	8	7	2	8	1	6
武部 公英 (大阪)	▲	9	8	7	9	9	9	9	▲	8	8
	19	37	54	74	94	111	120	129	149	165	準優勝

優勝

斎藤
祐太



斎藤祐太		男子選手権者	
		神奈川県	21歳
主な戦績	第14回世界ユース選手権大会 チーム戦銀メダル		
使用ボール	Dare Devil(15p2oz)		
公認トリマー	矢野金太（公認No. 0670-14）		

3位

吉田
大祐



連続をプラスした。3フレーム目の8・10番ピンがピン同士の絡みで何とか倒れたストライクが、斎藤とレーンの相性を象徴していた。新畑もレーンコンディションはつかんでいた。3・4フレームもストライクで計4連続。斎藤が4フレーム目に8番ピンを残したことで、1マークの差ができた。新畑の5フレーム目は2・8番ピンが縦に並び難しい残りピンだったが、冷静にスペアを取った。

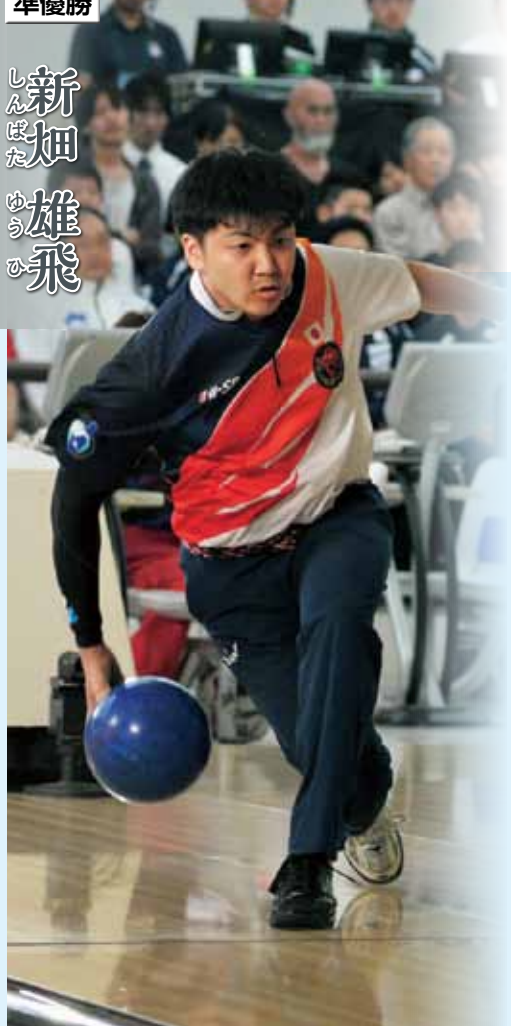
6フレーム目に再びストライクを決めた斎藤。追いつきたい7フレーム目は、残りかけた2番ピンに転がってきたピンが当たって倒れた。2度目のラッキーなピンアクションには、斎藤も思わず破顔した。並ばれた新畑はまずストライク。しかし8フレーム目はリリースを失敗してしまう。かろうじてスペアを取ったが、形勢は傾いてしまった。

気持ちの余裕も生まれた斎藤のストライクが止まらない。8・9フレームもつなげて優位に立ち、新畑の投了を見守る。残り全部ストライクが必須の状況で、新畑の9フレーム目は完璧なストライク。そして迷わず10フレーム目のアプローチに立った。

もう一度、完璧に見えた投球だったが10番ピンが残って勝負あり。悔し涙の新畑とは対照的に、斎藤は笑顔で締めくくり、昨年4位のリベンジと幼いころからの憧れでもあったNHK杯優勝を果たした。

準優勝

新畑
雄飛



京）は665をマークし、畑を3ピン上回って3位につけた。ファイナル進出をかけて最後の3ゲーム、斎藤は勢いのまま727を打って1番乗りを決めた。新畑が697で続き2位通過。648にまとめた吉田も3位に留まり、最後の1枠は畑と佐々木の争いに。ラストゲームで38ピンあった差を逆転して佐々木が滑り込んだ。

初優勝がかかる斎藤と新畑、歴代優勝者の吉田と佐々木。4人ともNHK杯のテレビ決勝は経験者で、新畑以外は2年連続となるファイナル進出となった。1フレーム目から攻めの姿勢を隠さず、全員がストライクを決め見せた。佐々木がただ一人ダブルを決めて優位に立ったが、以降レフティの吉田は7番ピン、斎藤と佐々木も10番ピンに阻まれて前半はこう着状態に。5フレーム目に3人ともストライクを決めたことで試合が動き出す。ここから斎藤は6連続で3人を置き去りにした。我慢が続いていた新畑だったが、6フレーム目からターキーで追いつく。すると9フレーム目に佐々木と吉田は相次いでオープンフレーム。あきらめずにノーマスで投げ終えた新畑が2枠目を手にした。

NHK杯のタイトルを渴望する2人が挑戦権を獲得し、迎えた優勝決定戦。その熱意がスコアに表れたゲームスタートとなった。先攻の斎藤がストライクを決めると、後攻の新畑はダブル。それを受けた斎藤も2



4位

佐々木
智之



男子の部入賞者

優勝：斎藤祐太、準優勝：新畑雄飛、第3位：吉田大祐、第4位：佐々木智之、第5位：和田翔吾、第6位：畑秀明

2017 全日本ナショナルチーム強化合宿

ここから世界へ、リスタート!



全日本ナショナルチーム恒例の強化合宿が、今年も5月2日(火)から6日(土)の5日間にわたって開催されました。長崎県大村市の大村Jボウル(公営№142-046)を主会場に、34名のメンバーがチームビルディングに励みました。3月の選考会を経てメンバーが刷新された今年のナショナルチーム。全員が揃う最初の機会となった今回の強化合宿は、チーム強化はもちろんのこと、今年度の国際大会代表選考も兼ねて行われ、ハードメニューをタイトなスケジュールでこなすものとなりました。世界選手権へ、そして来年のアジア競技大会を目指して、ナショナルチームがリスタートを切りました。

【特訓編】朝から晩まで、ボウリングのために



今回の合宿は時間的に投球タイムの比重が高めで、毎日異なるオイルパターンを設定して、国際大会を想定して取り組みました。初日・2日目は練習としての投球で、下地賀寿守監督はフリー投球タイムで各選手のコンディションを確認。その後3人チームでスコアをつけての練習に入ると、黙々と投球していた選手たちは一気にチーム戦モードに切り替わり、会場内に選手の声がとどきました。世界選手権の決勝を想定して、ペーカー方式のマッチゲームも繰り返し練習。緊迫感を出すため、目標スコア未到達と対戦で負けたチームのメンバーにはその場で筋トレメニューが課されました。3・4日目は世界選手権大会とアジアユース選手権大会の代表選手を選考するための「参考記録会」として、ショート・ミディアム・ロングの3オイルパターンで6ゲームずつ投球しました。この時間帯はメンバーは皆ライバル。引き締まった雰囲気、淡々とゲームが進行していきました。最終日は再び練習投球を。ナショナルチームは5人チーム戦を1ゲームずつメンバーチェンジしながら行いました。最後の最後、疲れが見え始めた選手たちに下地監督が檄を飛ばす場面も。全員が集まった貴重な時間を無駄にしない



スポット参加の北川薫会長によるフットサルのトレーニング。クロススポーツ(異競技の実践)で選手の運動能力を見極めました。普段と違う体の動きや、頭を使う運動をすることでさらに能力を伸ばす目的です。「想像以上に動けるね。アスリートらしくなった」と評価は上々でした。



1日のスタートもトレーニング!

1日のスケジュールは起床直後のウォームアップから始まります。朝6時30分に集合してストレッチのあと、ホテルから森園公園まで往復5kmのランニングと2人組になっての筋トレを1時間かけて行いました。

【歓迎編】応援がパワーになりました

大村市役所を表敬訪問



合宿の舞台となったのは長崎県大村市。5月2日(火)に協会役員・チームスタッフが大村市役所を表敬訪問し、吉野哲副市長より熱烈大歓迎をいただきました。吉野副市長は市役所の実業団ボウリング部メンバーでもあり、会談中はボウリングのコアな話が尽きませんでした。ゴールデンウィークに突入した翌日からは大村Jボウルにも足を運ばれ、長時間にわたって練習を観覧していただきました。そして吉野副市長よりビッグなプレゼントが。最高級の大村牛を差し入れていただき、最後の晩餐にバーベキューを開催しました。霜降り肉に選手も大興奮! 鍛えた体に最高のエネルギーとなりました。



吉野副市長から大村牛の差し入れ♡



合宿の始まりを告げるオリエンテーションに、オフィシャルスーツと制服で臨むメンバーたち。大村Jボウルの山中雄二支配人にも激励していただき、気持ちを引き締めました。

フルサポートに感謝♡



宿舎となった長崎インターナショナルホテルは、長崎国体(2014年)の会場・長崎ラッキーボウルの川添徳也社長がオーナー。寛大なご理解のもと、早朝から深夜までかかる合宿スケジュールをフルサポートしてくださいました。スタッフの方によるお見送り、お出迎えに選手も癒されました。

地元ボウラーとの交流会



5月4日、地元長崎県のボウラーを迎えて交流会が開かれました。メンバー3人+来場者3人のボックス対抗チーム戦を実施。キャンセル待ちも続出だったそう。豪快なストライクとパフォーマンスでサービスするメンバーに、長崎の方々



ご協力ありがとうございました

大村Jボウル(山中雄二支配人はじめスタッフの皆様)、長崎インターナショナルホテル(川添徳也相談役、末永淳一総支配人、宿泊課植木七郎マネージャー、スタッフの皆様)、大村市役所(吉野哲副市長、職員の皆様)、長崎県スポーツコミッション(鈴木英司事務局長)、長崎県教育庁(岩永聡子指導主事)、長崎県ボウリング連盟(松尾勝利理事長、毛利友一さん、久保和幸さん、井上廣さん、政時由尚さん、林田真一郎さん、高橋徹さん、田口潤さん、菊川隆行さん、中村守光さん)、参加選手ご家族の皆様(順不同・敬称略)



5月4日は県立総合運動公園に出向いて、ジムでマシン等を使ったトレーニングも行いました。新メンバー14人を迎えた今回、瀧本未来トレーナーは機器の使い方や正しい姿勢の取り方を一から指導しました。天気にも恵まれたこの日は、広々とした公園内を走ったり、チューブを使って負荷をかけながらの運動や、鬼ごっこをアレンジしたゲーム性のある運動で全身を動かしました。



研修・講義も満載!



体を動かすだけではなく、勉強の時間もたっぷり。初日はオリエンテーションに続いて、JADAによるアンチ・ドーピングの研修会が開かれました。長崎県ラグビーフットボール協会会長も務める衛藤正雄医師が注意点を詳しく解説してくださいました。夕食後の研修タイムは、下地監督、齋藤専務理事、佐藤専務理事、砂古口強化委員長による講義に加え、メンバー間のコミュニケーションをとるための時間もとり、就寝まで時間を惜しむ毎日でした。



今年度、ナショナルチームのオフィシャルスポンサーとなったファイテン(株)より、知野亨トレーナーにゲスト参加いただきました。写真は体幹部の筋肉をチェックしてほぐされている羽ヶ崎選手。この講習直後の投球タイムに好スコアを続出して「効果実証!？」と周囲を驚かせました。

TOP BOWLER

vol.114 優勝を振り返って…



さいとう・ゆうた 21歳 実業団の日本精工に所属。2016年世界ユース選手権で日本チームの銀メダル獲得に貢献。2017年春にナショナルチームを離れるも、昨年4位の實力を示して初優勝を遂げた。



たけべ・きみえ 46歳 2016年の全日本選手権、国体で個人優勝を遂げたベテラン実力者。NHK杯でも2009年にテレビ決勝進出、3位入賞を果たしており、今大会で初優勝を飾った。

斎藤「なるべく新畑選手よりもストライクを多くつなげて、イージーミスをしないうちに心がけて、あとは一投一投とにかく全力で集中することを考えて、投げていました。昨年は4位で終わってしまっていたんですけど、そのリベンジを果たすことができて、優勝しに来たんですけど、ちょっと信じられない気持ちでいっぱいなんです。小さいころからずっとテレビで、この優勝決定戦、生中継を見ていたんですけども、そこで今自分が投げて、勝って、優勝できたということは、何度も言うんですが信じられないです。」

武部「すごく難しいレーン（コンディション）だったので、本当にスベアを取ることにしか頭になくて、辛抱してよかったです。結構年齢いってるんですけど、年齢重ねるようになってきたので、すごく長い3日間でしたが、我慢してきてよかったです。すごい欲しかったタイトルなので、本当うれしいです。若い方のパワーとか、ナショナル選手みたいな勢いとか持ってませんから、それに勝負できるには精神面だったりとかで勝負しないとだめだと思うので、年齢のせいでしょうか。」

斎藤祐太さん & 武部公英さん
(神奈川県) (大阪府)

2017新ユニフォームは サンブリッジ & ハイスports



We are Team **JAPAN**

ナショナルチーム通信



全日本ナショナルチームの2017ユニフォームが完成しました。オフィシャルサプライヤーの㈱サンブリッジ、

NHK杯でお披露目!!

は、黒とゴールドのシンブルかつ力強いカラーリングで、和のテイストも感じるデザインです。

ハイスportsバージョンはネイビーと白、そして赤い翼のコントラストが効いた、さわやかなイメージに仕上がりました。

そして両デザインとも、国名にJAPANの翼をあしらったロゴを使用。まさに背中に翼が生えたようなウェアになりました。

メンバーは5月の強化合宿で袖を通し、国内ではNHK杯でお披露目されました。公式国際大会としては7月のワールドゲームズが初披露となる予定です。

レジェンドスターより
ボールクリーナー提供

ボールクリーナーワイブは
選手の心強い味方



ールクリーナーワイブがチームに提供されました。業務用のパッケージス入りタイプが強化合宿のために用意され、選手は思う存分ボールの手入に活用しました。

平成29年度 第1回理事会

28年度決算案・事業報告案を可決



平成29年度第1回理事会が5月26日(金)に東京・仏教伝道センターで開催されました。前年度の決算案と事業報告案を審議、可決し、6月13日(火)開催の平成29年度定時評議員会に諮ることとなりました。【詳細は次号】

JBC公認第3種審判員認定会 (東日本)

受講受付中です

平成29年度JBC公認第3種審判員認定会の東日本地区(神奈川)

は7月開催です。現在受講申込を受け付けています。新たに資格取得を希望される方はご参加ください。また日体協公認ボウリング指導者資格をお持ちの方は、資格更新のための義務研修として受講できます。聴講参加も受け付けます。

【実施概要】

▽期日 7月8日(土)～9日(日)

▽会場 川崎市教育文化会館(神奈川県川崎市)

▽受講料 6480円(日体協公認スポーツ指導者義務研修は3240円、聴講者は5400円)

▽申込締切 6月16日(金)(先着80名で締め切ります)

砂糖は、脳とカラダに 大切なエネルギー

公益社団法人 糖業協会は、健康スポーツ ボウリングを応援します。

公益社団法人 糖業協会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-3
TEL: 03-3215-0661 FAX: 03-3215-0666



ボウリングで元気パワー
参加人口
No.1スポーツ
ボウリング
お砂糖は、
脳とカラダに
必要な応援団
お砂糖 プラスで賢く幸せ気分!

砂糖で元気エネルギー